

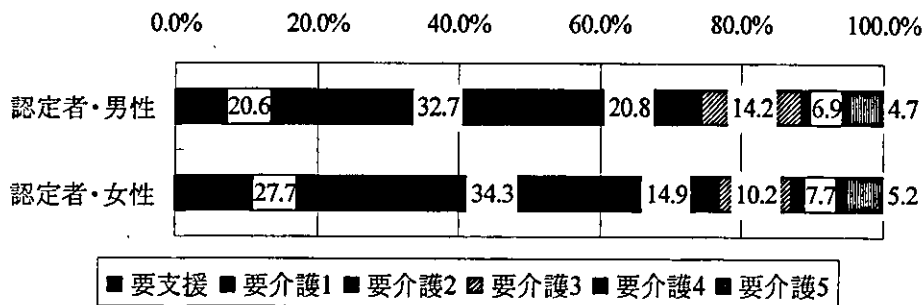
◆◆◆認定者の様子◆◆◆

ここからは、認定者に限定して、介護に関わる方々をみていきましょう。

要介護度

男女別に要介護の程度をみると、女性6割以上の方が要支援、要介護1の比較的介護程度が低い場合にあります。一方、男性の5割以上が要介護1もしくは2にいます。要介護5の方は男女ともに5%程度です。

図表15 男女別、要介護度



要介護度ごとに平均年齢をみてみますと、要介護度が重くなるにつれて、女性の方がより高齢化していることがわかります。

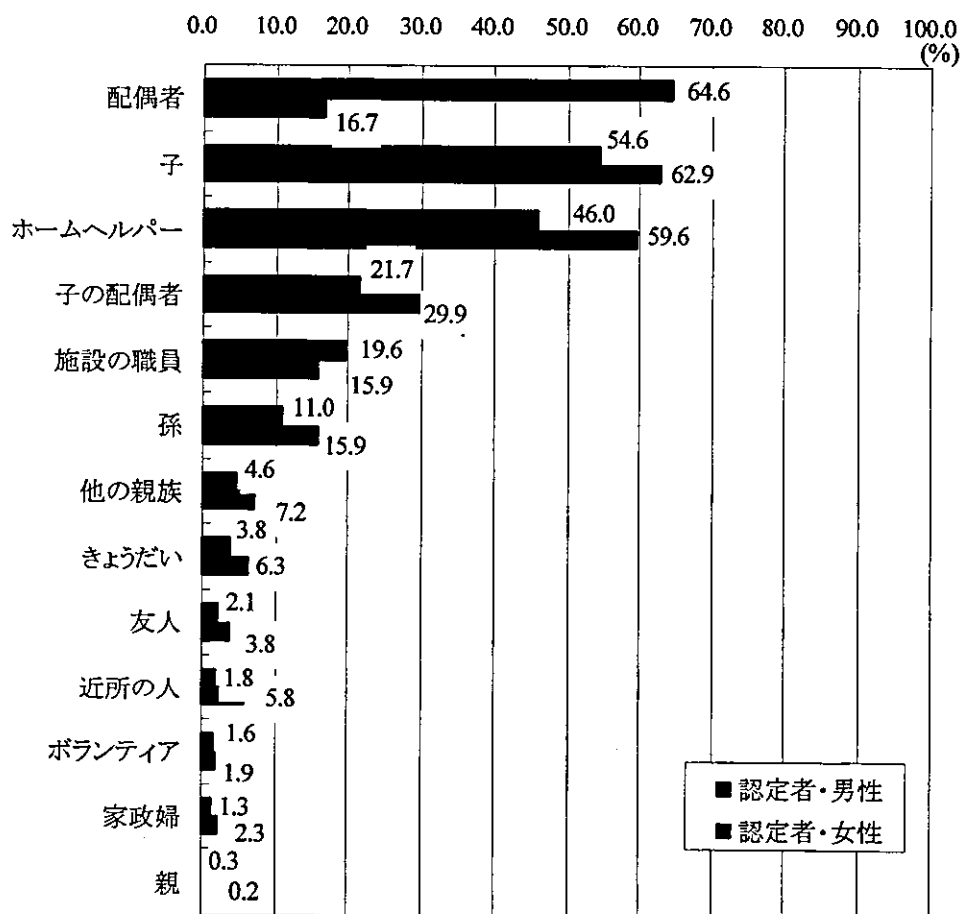
図表16 男女別、要介護度別、平均年齢

	認定者・男性	認定者・女性
要支援	80.3歳	80.0歳
要介護1	80.2歳	82.2歳
要介護2	80.2歳	83.5歳
要介護3	80.9歳	84.8歳
要介護4	81.9歳	85.2歳
要介護5	81.8歳	86.4歳

## 介護に関わる人

介護に関わる人の分布をみると、男女で大きく異なるのは配偶者の関与です。男性の6割以上が配偶者と答えているのに対し、女性では17%程度しか配偶者と答えた人はいません。一方、男性より女性の方が高い割合を示したのは、子ども、子の配偶者、ホームヘルパー等です。男性では6割以上が配偶者によって介護されています。

図表17 男女別、介護に関わる人



介護に関わる人の数は平均して男性2.4人、女性2.3人で、要介護度が上がるにつれて介護に関わる人の数は概ね増加します。

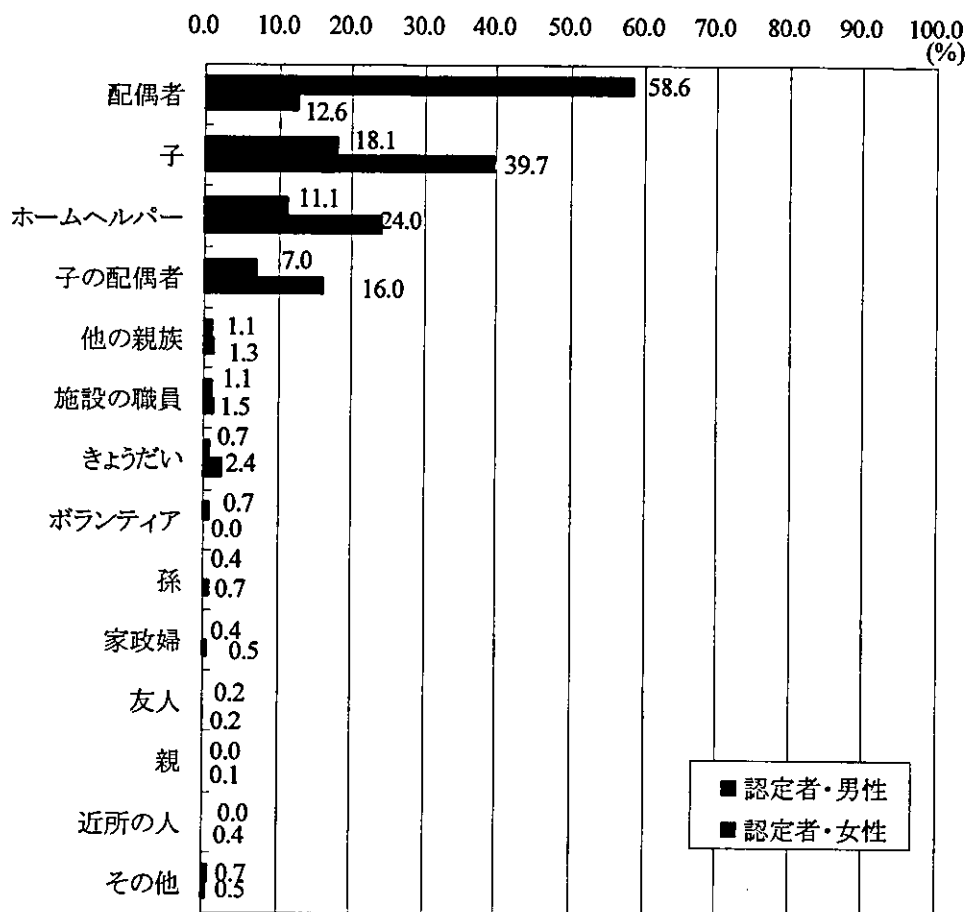
図表18 男女別、要介護度別、介護に関わる平均人数

	認定者・男性	認定者・女性
全体	2.4人	2.3人
要支援	1.9人	1.8人
要介護1	2.2人	2.3人
要介護2	2.8人	2.6人
要介護3	2.7人	2.7人
要介護4	2.9人	2.8人
要介護5	2.5人	2.6人

### 主として介護する者

主として介護に関わる人は、男女で大きく異なります。男性の6割程度は配偶者によって主として介護されています。一方女性は、子によるもの40%、子の配偶者（多くは嫁）によるもの16%と、子世代によって介護が支えられています。また、女性の4分の1程度がホームヘルパーによって主として介護されていると答えており、親族を超えて社会的に介護が担われる状況が少しずつ進んでいます。

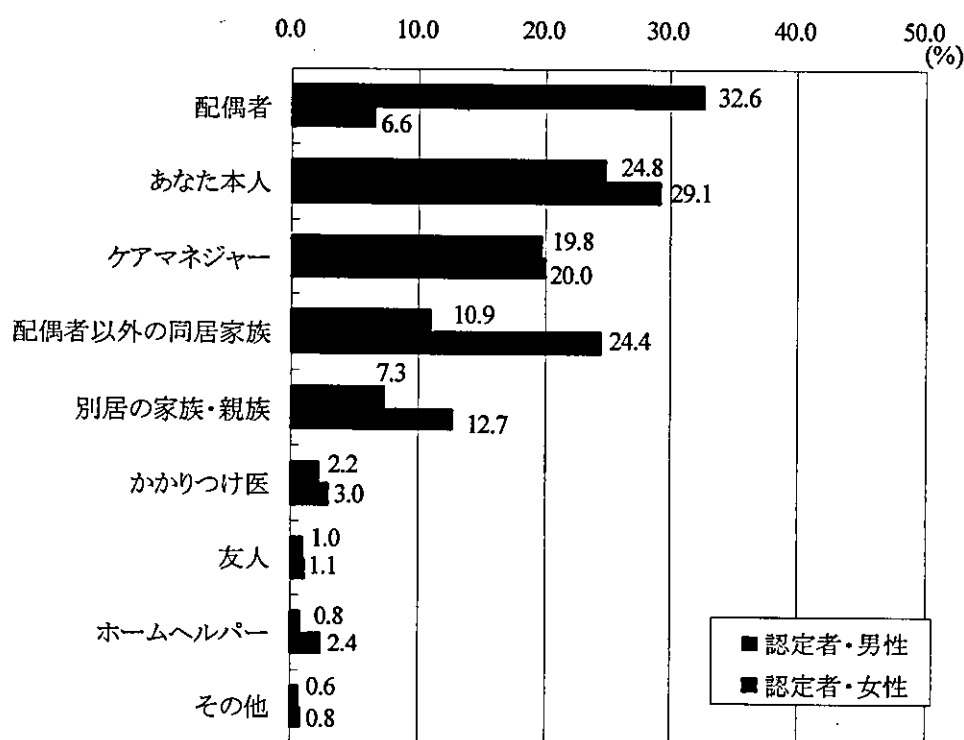
図表19 男女別、主たる介護者



## 介護サービス利用を決定する人

男性の場合は、介護サービスを利用するにあたって決定権を持つのは配偶者である割合が3分の1近くなっています。一方、女性は、配偶者以外の同居家族が4分の1、別居の家族・親族が13%と子どもを中心とする親族によって決定される割合が高くなっています。それでも、男性25%、女性29%は自分で介護サービスの利用を決めていると答えています。

図表20 男女別、介護サービスを利用するにあたって決定権を持つ人



## 訪問者

認定者への訪問者の様子を見ると、女性の方が近所の人から訪問を受ける頻度が高いことがわかります。別居の家族・親族からの訪問は男女で大きな違いが見られませんが、近所の人や友人、ヘルパーなどからの訪問は女性の方が多くみられます。

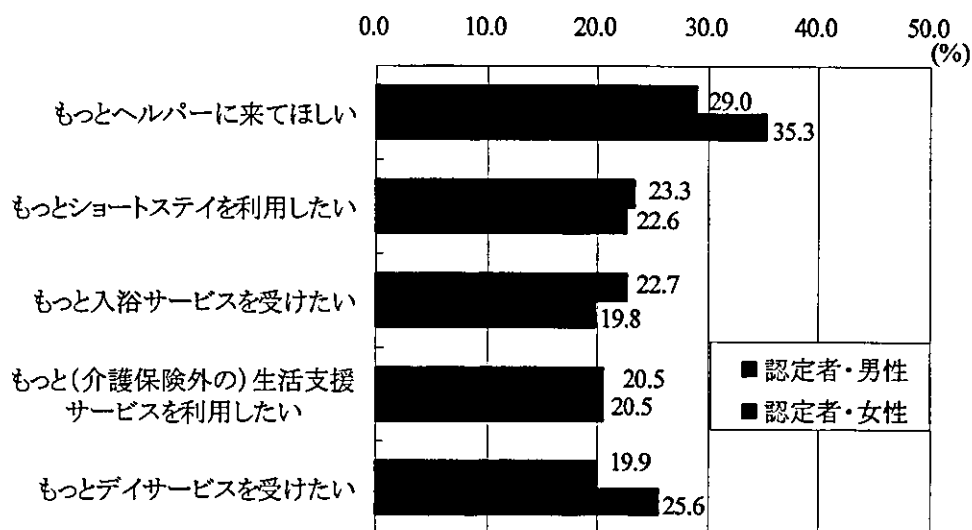
図表21 男女別、訪問者の頻度(%)

	別居の家族・親族		近所の人		近所以外の友人		民生委員/ヘルパー等	
	認定者・男性	認定者・女性	認定者・男性	認定者・女性	認定者・男性	認定者・女性	認定者・男性	認定者・女性
ない	11.2	11.6	50.7	38.2	54.8	49.7	20.2	17.0
年に1回以下	3.9	5.2	2.8	2.3	10.8	8.5	4.2	3.2
年に2~3回	21.8	20.6	9.2	9.9	16.7	16.9	7.3	7.4
月1回以上	30.9	28.7	15.8	22.1	11.6	16.2	20.6	16.5
週1回以上	21.2	21.4	17.5	19.8	5.5	7.7	38.7	46.3
ほぼ毎日	11.0	12.6	4.0	7.7	0.6	1.0	9.1	9.7

### 希望する介護関連サービス

介護関連サービスについて希望があると答えた方は、男女ともに4割強です（図表は省略）。「希望がある」と答えた方の中で、男女ともに最も高い希望があったのが、「もっとヘルパーに来てほしい」（それぞれ、29%、35%）です。デイサービスについても、女性は男性よりも高い希望を示しています。

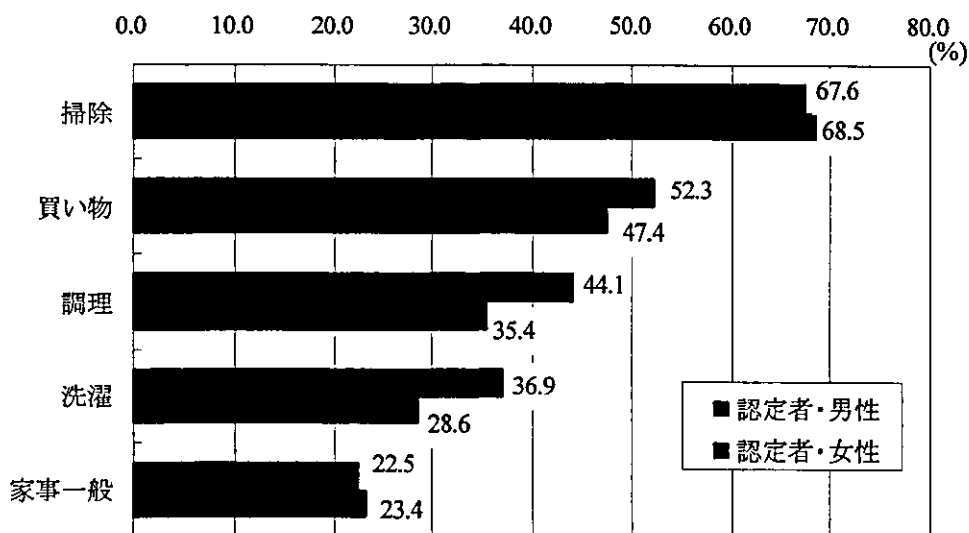
図表22 男女別、介護関連サービスに対する希望



### 家事支援サービスへの希望

家事支援サービスについては、男性の方が女性よりも一般に高い希望を表しています。男女ともに掃除に対して高い希望があります。

図表23 男女別、より多くの支援を希望する家事サービス



# 稲城市の高齢者

## －「高齢者の生活実態に関するアンケート調査」結果概要－

平成 15 年 10 月、稲城市に住む 65 歳以上の高齢者の方を対象に「高齢者の生活実態に関するアンケート調査」を実施いたしました。ここでは、未認定者の方の健康状態や社会参加の様子、要介護認定者の介護に関わる方々等について、主な調査結果をお知らせします。

### 調査の方法

本調査は、要介護認定者（以降、認定者と呼びます）と未認定者から調査対象者をくじ引きの要領で無作為に選んで、調査にお答えいただきました。稲城市にお住まいの 65 歳以上高齢者の方を対象に、認定者の方 913 人と未認定者の方 843 人に調査票を配布しました。そのうち調査票をご返送いただいたのは、認定者 472 人（回収率、59.2%）、未認定者 472 人（回収率、56.0%）でした。

調査票を回収後、在宅で生活されている 65 歳以上の高齢者の方を対象に調査結果をまとめました。尚、80 歳以上の方は多くありませんので、結果の解釈にはご注意ください。

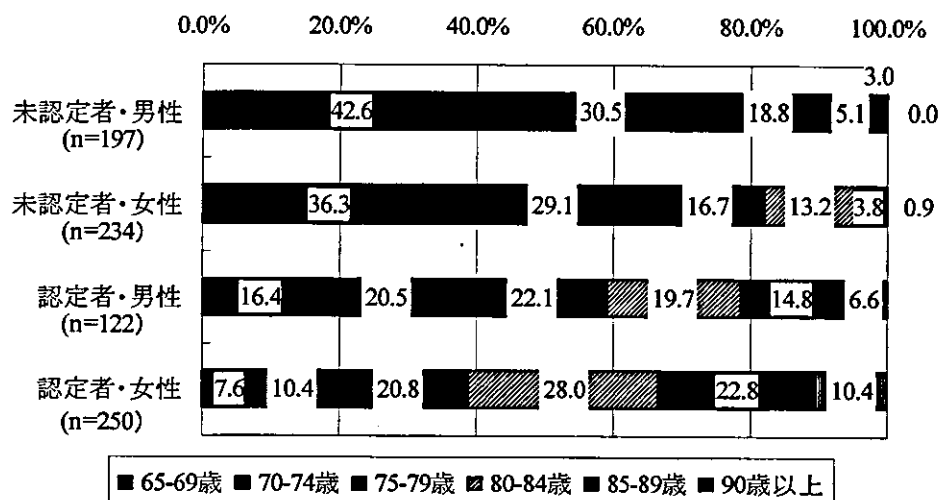
## 年齢分布

認定者と未認定者の年齢分布を男女別に見てみましょう。

未認定者のうち、男性 73%、女性 65%は 75 歳未満でした。

認定者については、男性では 63%が、女性では 82%が 75 歳以上です。特に女性では 90 歳以上の方が 1 割いらっしゃいます。

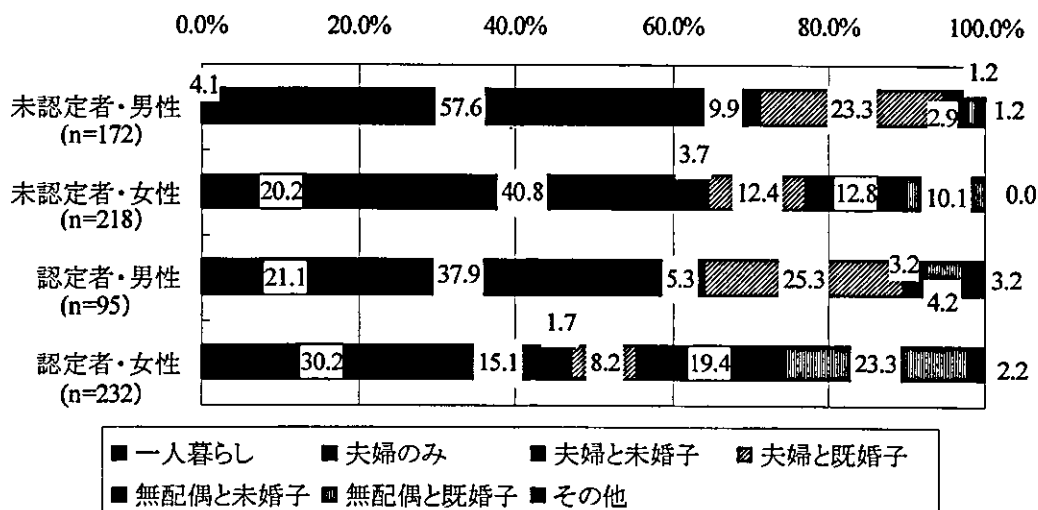
図表1 認定者・未認定者別、男女別、年齢分布



## 世帯構造

未認定者のうち、男性 4%、女性 20%が一人暮らしです。ご夫婦のみでお暮らしの方は、男性 58%、女性 41%でした。認定者の中でも一人暮らしの方は、男性 21%、女性 30%いらっしゃいます。男性認定者の 4 割近くは、夫婦のみでお暮らしです。

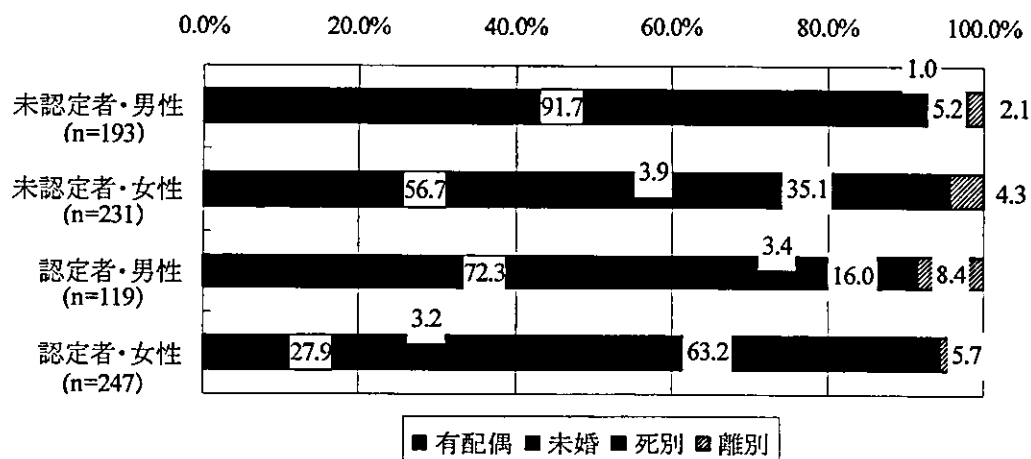
図表2 認定者・未認定者別、男女別、世帯構造分布



## 配偶者の有無

高齢者の男女間で大きな違いの一つに、配偶者のご健在かどうかがあります。未認定女性の過半数が有配偶者であるのに対し、認定者となると女性の有配偶者率は3割程度に減ります。一方、男性は、未認定者の9割以上、認定者の7割以上が有配偶者です。

図表3 認定者・未認定者別、男女別、配偶関係





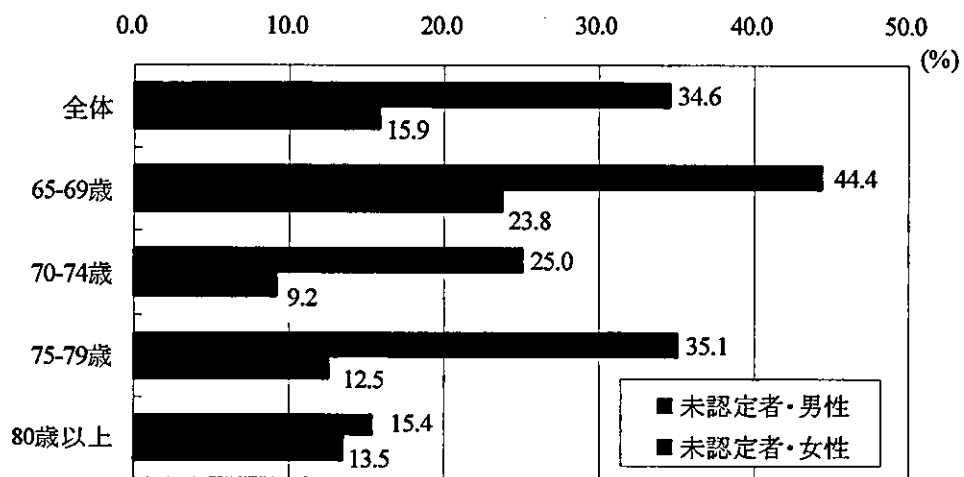
◆◆◆未認定者の様子◆◆◆

まず未認定者について見ていきましょう。

仕事の有無

調査時点でお仕事を持っていたらっしゃる方は、男性 35%、女性 16%でした。大半は引退されている方でしたが、60代（65～69歳）に限ると、女性の4分の1弱、男性の44%はお仕事をお持ちです。

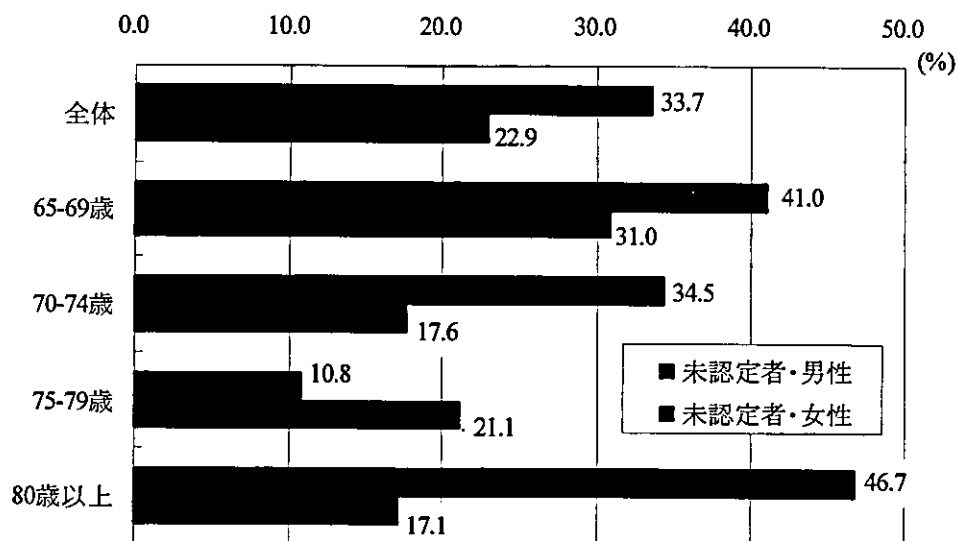
図表4 男女別、年齢階級別、仕事を持っている人の割合



## 健康状態

「健康である」と答えた方は、男性34%、女性23%でした。年齢とともに、「健康である」と答えた方の割合は大体減る傾向にあります。

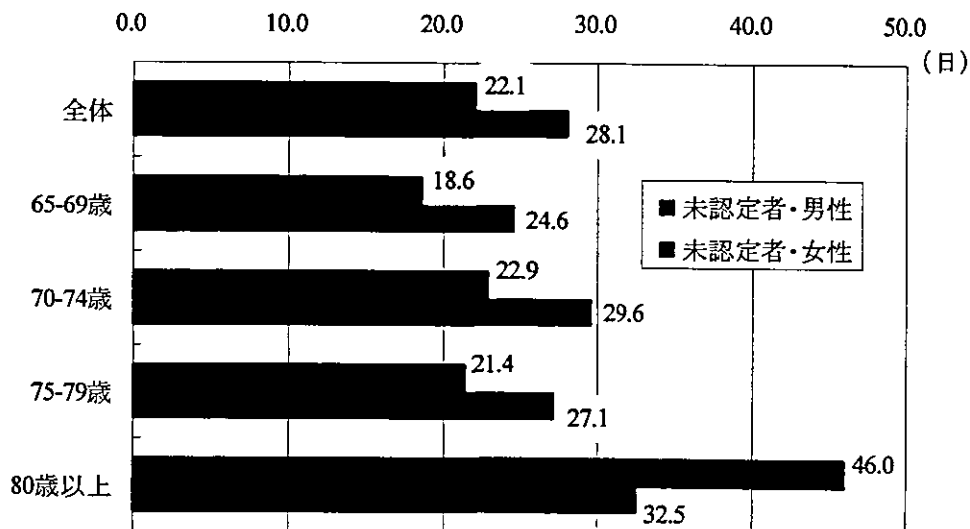
図表5 男女別、年齢階級別、「健康である」と答えた人の割合



## 医者にかかる頻度

「医者にかかっている」と答えた人の中で、医者にかかる頻度を見てみました。ここでの値は頻度を1年当たりの日数で換算しました。90歳以上を除き、女性の方が男性に比べてよく医者にかかっています。一般に年齢が高くなるほど医者にかかる頻度は上がります。

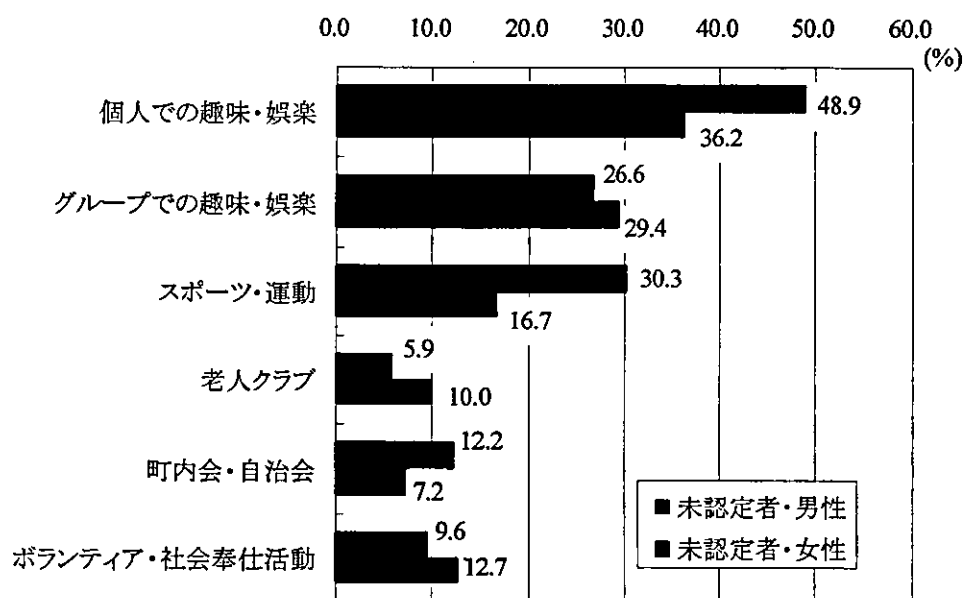
図表6 男女別、年齢階級別、医者にかかる頻度(日/年)



## 社会的活動

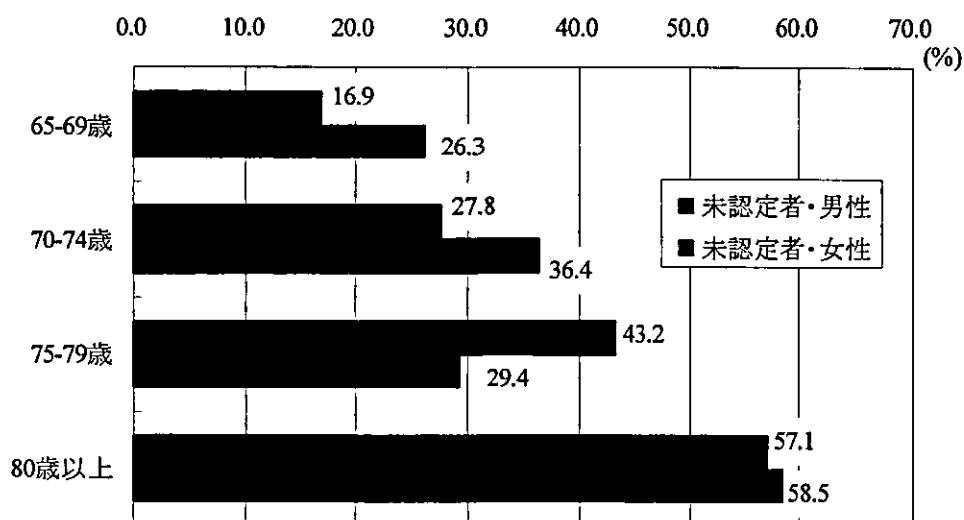
さまざまな社会的活動について質問しました。男性は女性に比べて、個人的な趣味を好む傾向にあるようです。女性よりも男性の方が活発な活動として、「スポーツ・運動」、「町内会・自治会」などの活動が挙げられます。「老人クラブ」に参加していると答えの方は男女ともに少数派です。「ボランティア・社会奉仕活動」に関わる方はまだ少数派ですが、男女ともに1割程度います。

図表7 男女別、社会活動への参加状況



特に活動をしなかった割合は年齢とともに大体上昇します。男女ともに、80歳以上になると、6割近くがこれといった活動をしなかったと答えています。

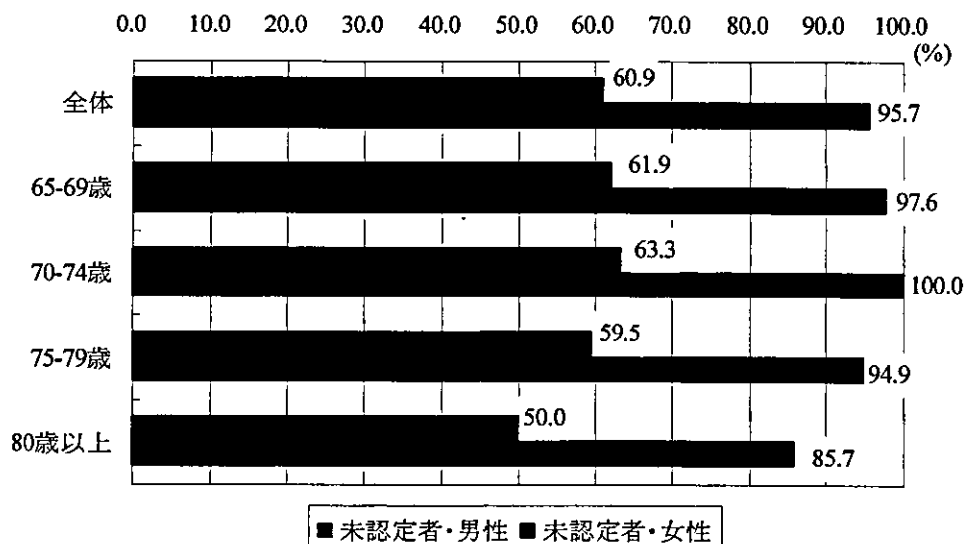
図表8 男女別、年齢階級別、特に活動しない人の割合



## 家事参加

では、家庭の中の様子はどうか。「家事をしている」と答えた方の割合は、男性 61%、女性 96%でした。高齢期では男性も女性ほどではありませんが、家事に参加しています。

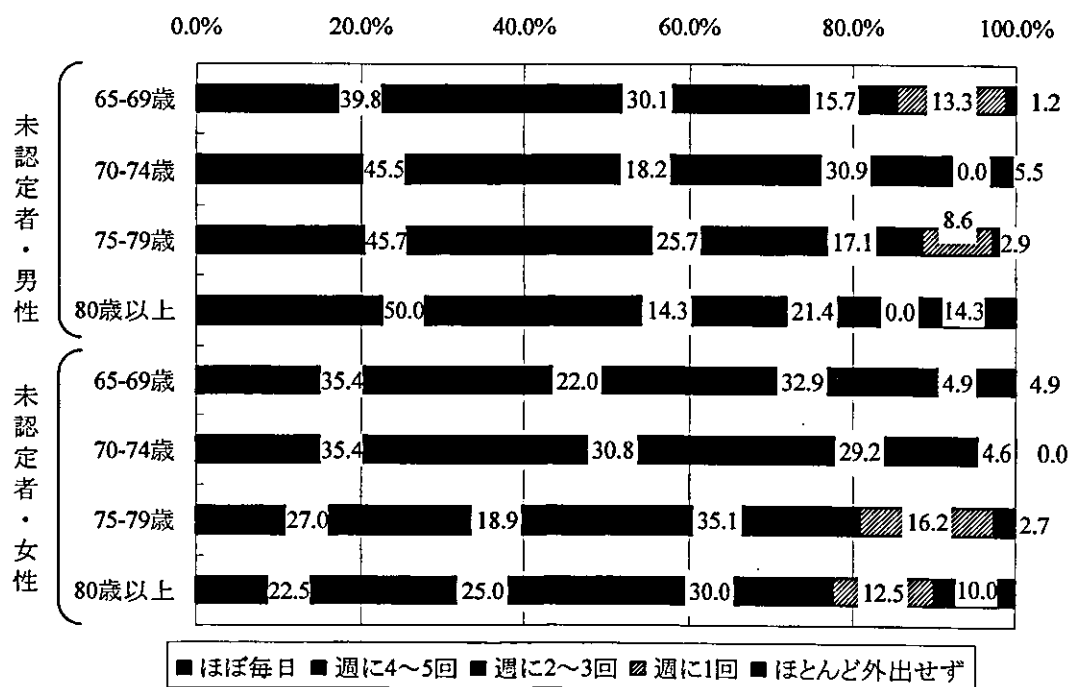
図表9 男女別、年齢階級別、家事をしている人の割合



## 外出頻度

外出頻度を見てみましょう。男性は年齢によって外出頻度がそれほど大きく変わりません。一方女性は、高齢になるほど外出頻度が低くなる傾向があります。

図表10 男女別、年齢階級別、外出頻度



## 訪問者

では、どのような方から訪問を受けているのでしょうか。ここでは特に一人暮らしの方に着目してみましよう。別居の家族・親族からの訪問が「全くない」とした割合は男性43%、女性12%です。近所の人からの訪問については、男性の60%、女性の18%が「ない」と答えています。男性一人暮らしの方が女性一人暮らしよりも訪問者が少ない傾向にあります。

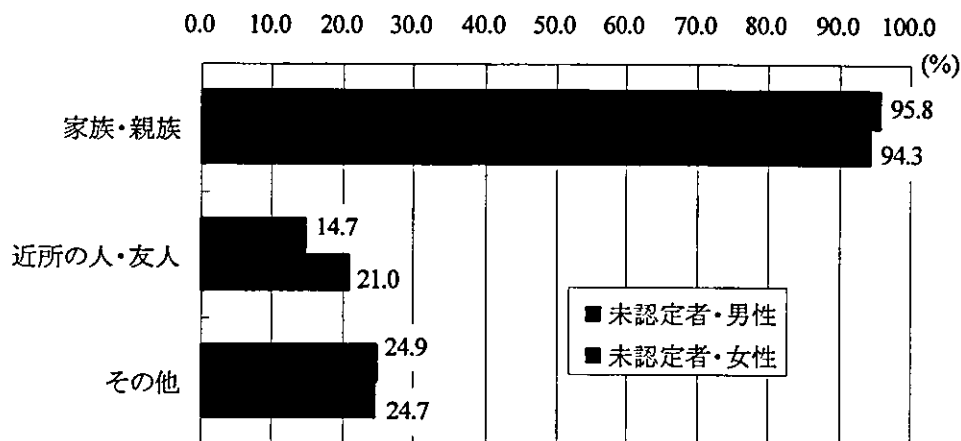
図表11 一人暮らし男女別、訪問者の頻度(%)

	別居の家族・親族		近所の人		近所以外の友人	
	未認定者・男性	未認定者・女性	未認定者・男性	未認定者・女性	未認定者・男性	未認定者・女性
ない	42.9	11.6	60.0	17.9	33.3	28.9
年に1回以下	0.0	2.3	0.0	2.6	0.0	5.3
年に2～3回	14.3	14.0	0.0	2.6	33.3	23.7
月1回以上	42.9	37.2	40.0	30.8	33.3	23.7
週1回以上	0.0	25.6	0.0	41.0	0.0	18.4
ほぼ毎日	0.0	9.3	0.0	5.1	0.0	0.0

## 緊急時に頼りにする人

男女ともに、急病や事故など緊急時に頼りにする人として「家族、親族」を挙げる人が大多数です。一方、「近所の人・友人」を頼るとした割合は、男性15%、女性21%です。女性は、緊急時に頼る人に近隣ネットワークを視野に入れる傾向にあります。

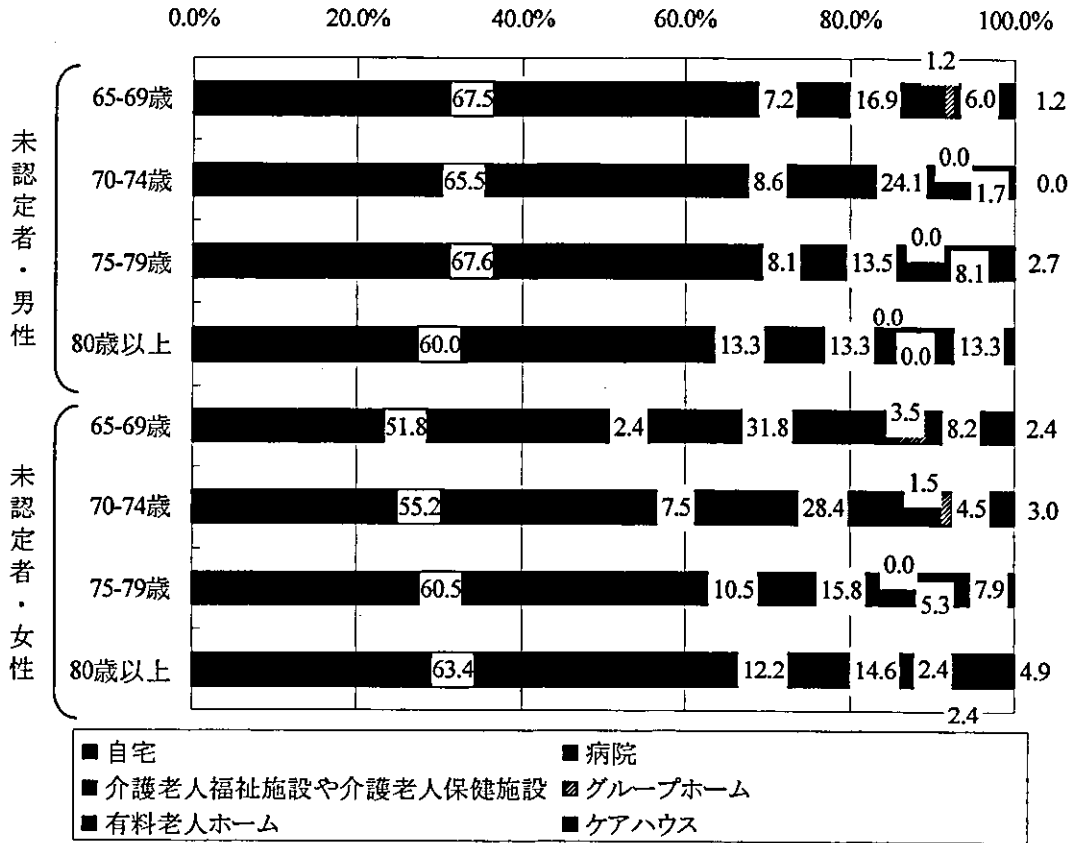
図表12 男女別、急病や事故などの緊急時に頼る人



### 希望する介護場所

男性はどの年齢層も6割から7割程度が、「自宅」と答えています。一方女性は、年齢が上がるほど「自宅」と答える割合が上がります。また、60代（65～69歳）の32%が「介護老人福祉施設や介護老人保健施設」と答えています。80歳以上になるとその割合が半減します。

図表13 男女別、年齢階級別、希望する介護



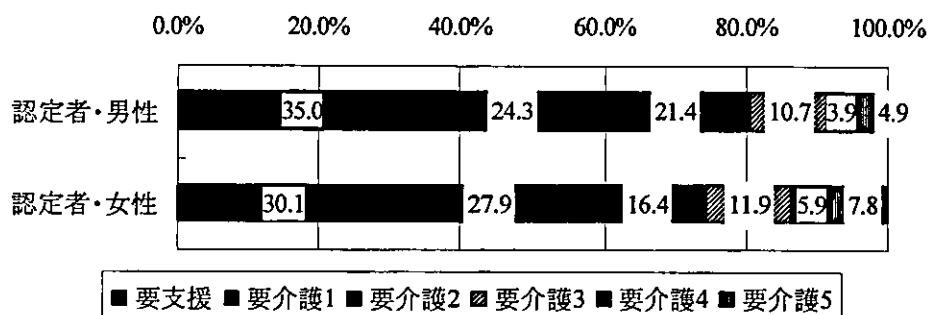
◆◆◆認定者の様子◆◆◆

ここからは、認定者に注目して、介護に関わる方々を中心に見ていきましょう。

要介護度

要支援と要介護1の軽度の方が男性59.3%、女性58.0%と半数以上を占めています。

図表14 男女別、要介護度



要介護度ごとに平均年齢をみますと、要介護度が重くなるにつれて、女性の方がより高齢化していることがわかります。

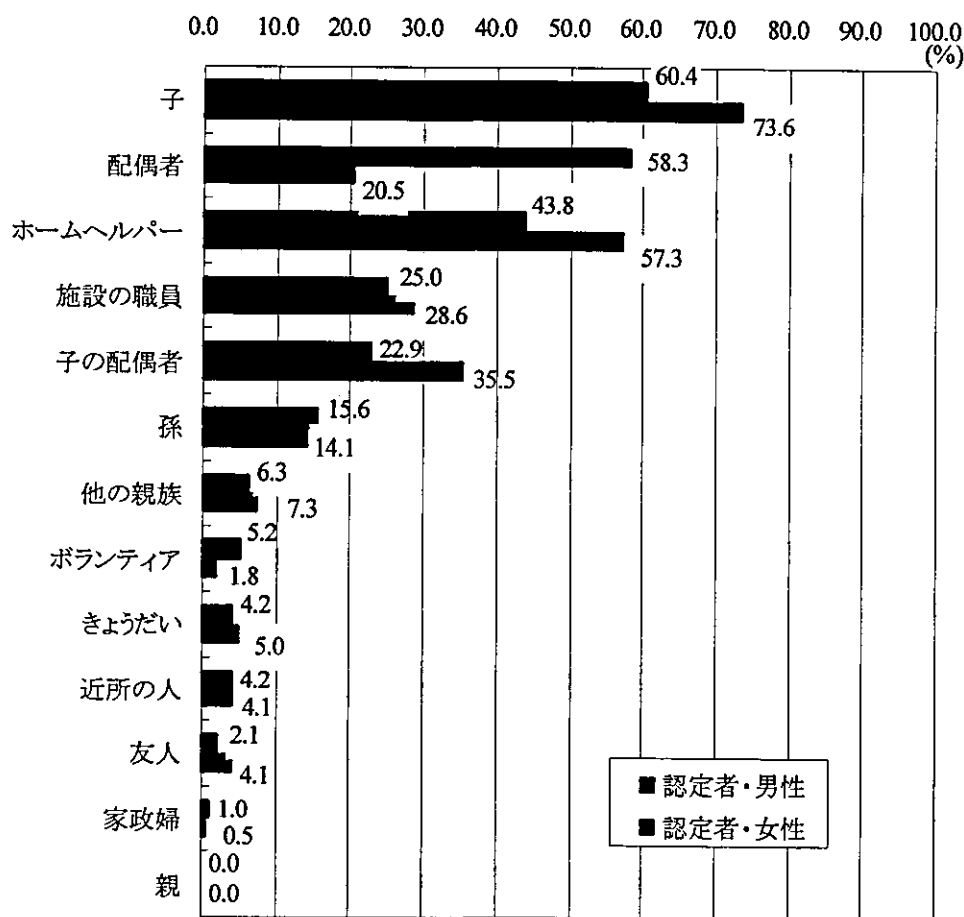
図表15 男女別、要介護度別、平均年齢

	認定者・男性	認定者・女性
要支援	80.3歳	79.6歳
要介護1	77.5歳	80.8歳
要介護2	73.3歳	80.6歳
要介護3	80.9歳	83.2歳
要介護4	79.3歳	80.2歳
要介護5	78.4歳	85.8歳

## 介護に関わる人

介護に関わる人の分布を見てみると、男女で大きく異なるのは配偶者の関与です。男性の6割程度が「配偶者」と答えているのに対し、女性は2割程度しか「配偶者」と答えた人はいません。一方、女性の方が高い割合を示したのは、「子ども」、「子の配偶者」、「ホームヘルパー」です。男性の方が配偶者に集中して介護が行われています。

図表16 男女別、介護に関わる人



介護に関わる人の平均を見ると、男女ともに要介護度が上がるにつれて概ね増加する傾向があります。

図表17 男女別、要介護度別、介護に関わる平均人数

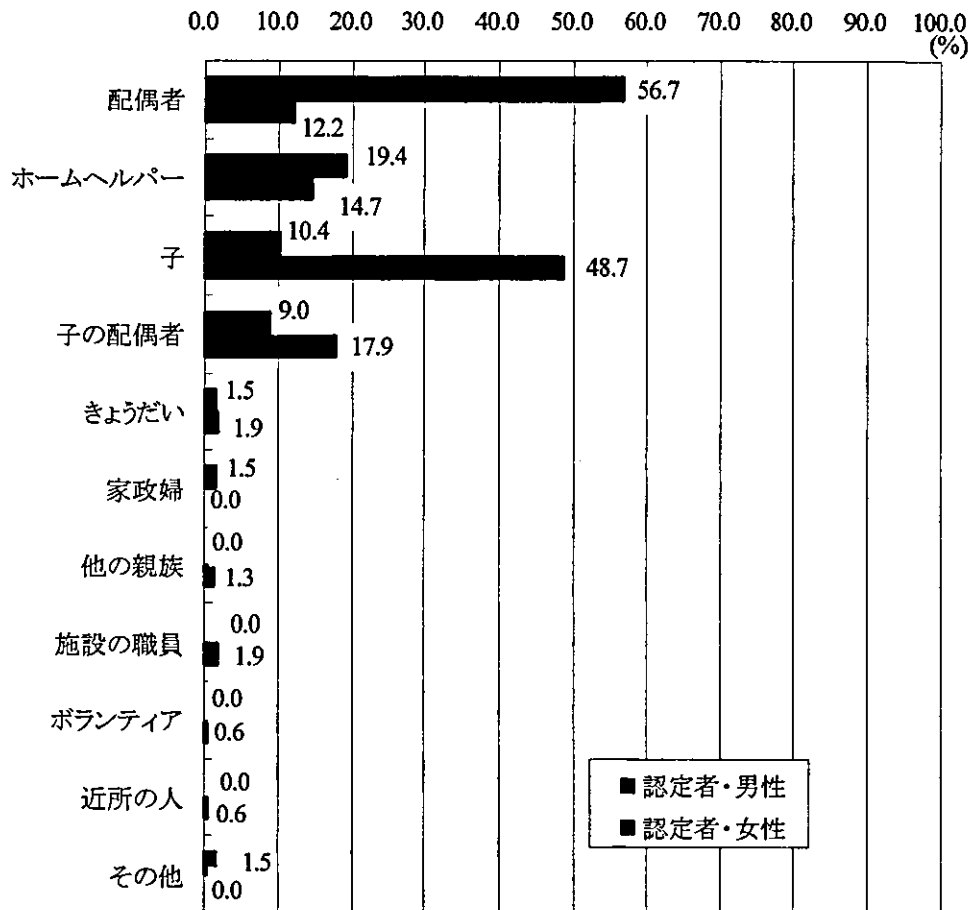
	認定者・男性	認定者・女性
要支援	2.0人	2.2人
要介護1	2.2人	2.6人
要介護2	3.0人	2.7人
要介護3	2.8人	3.0人
要介護4	4.3人	3.3人
要介護5	2.8人	2.4人



### 主たる介護者

主として介護に関わる人は、男女で大きく異なります。男性の6割程度は配偶者によって主として介護されています。一方女性は、「子」によるもの5割、「子の配偶者（多くは嫁）」によるもの18%と、主として子世代によって介護されています。男性の19%、女性の15%が主として「ホームヘルパー」によって介護されていると答えており、親族を超えて社会的に介護が担われる状況が少しずつ進んでいるようです。

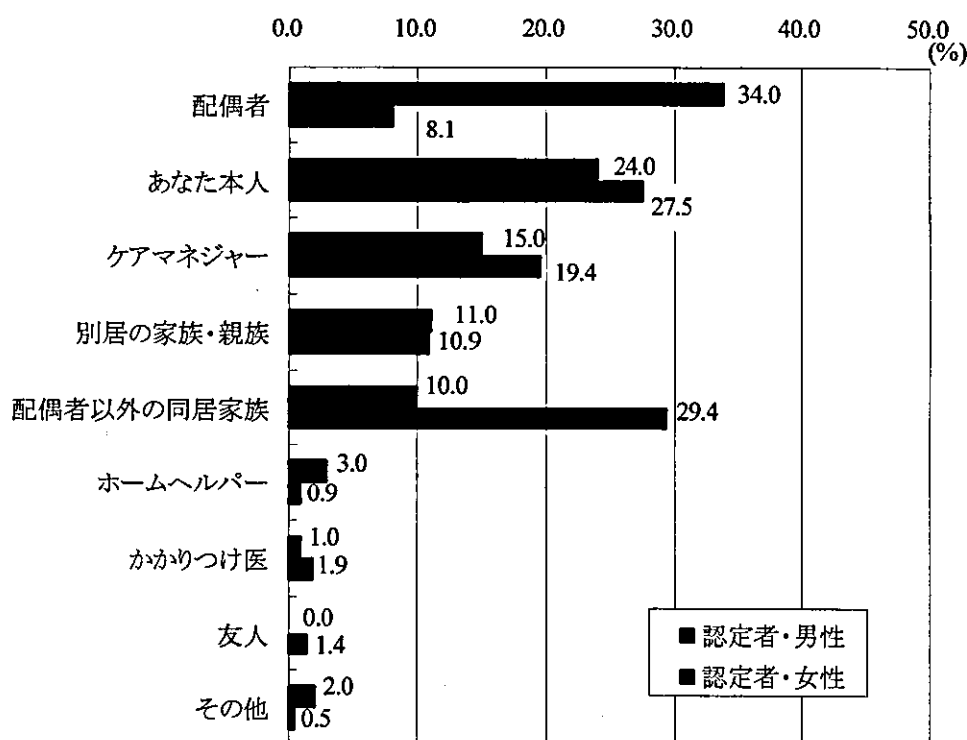
図表18 男女別、主たる介護者



## 介護サービス利用を決定する人

男性の場合は、介護サービスを利用するにあたって決定権を持つのは「配偶者」である割合が34%となっています。一方、女性は、「配偶者以外の同居家族」が3割、「別居の家族・親族」が11%と、子どもを中心とする親族によって決定される割合が高くなっています。それでも、男性 24%、女性 28%は自分で介護サービスの利用を決めていると答えています。

図表19 男女別、介護サービスを利用するにあたって決定権を持つ人



## 訪問者

認定者への訪問者の頻度を見ると、別居の家族・親族や近所以外の友人からの訪問は男性の方が、近所の人やヘルパーなどからの訪問は女性の方が多く見られました。

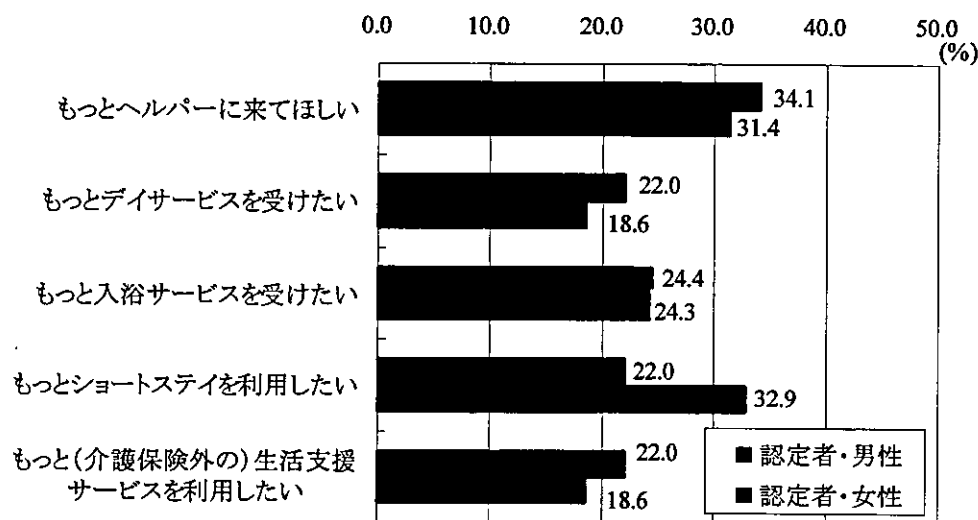
図表20 男女別、訪問者の頻度(%)

	別居の家族・親族		近所の人		近所以外の友人		民生委員/ヘルパー等	
	認定者・男性	認定者・女性	認定者・男性	認定者・女性	認定者・男性	認定者・女性	認定者・男性	認定者・女性
ない	6.6	11.9	45.7	39.3	50.0	53.1	25.7	21.5
年に1回以下	7.5	7.8	4.3	1.9	15.2	10.6	8.9	1.8
年に2~3回	24.5	20.5	12.0	14.2	18.5	12.6	5.0	11.0
月1回以上	29.2	26.0	19.6	20.9	13.0	16.4	11.9	9.6
週1回以上	25.5	20.5	18.5	18.0	2.2	5.8	38.6	45.2
ほぼ毎日	6.6	13.2	0.0	5.7	1.1	1.4	9.9	11.0

### 希望する介護関連サービス

介護関連サービスについて希望があると答えた方は、男女ともに4割強です（図表は省略）。「希望がある」と答えた方の中で、男女ともに高い希望があったのが、「もっとヘルパーに来てほしい」（それぞれ、34%、31%）です。ショートステイについて、女性は男性よりも高い希望を示しています。

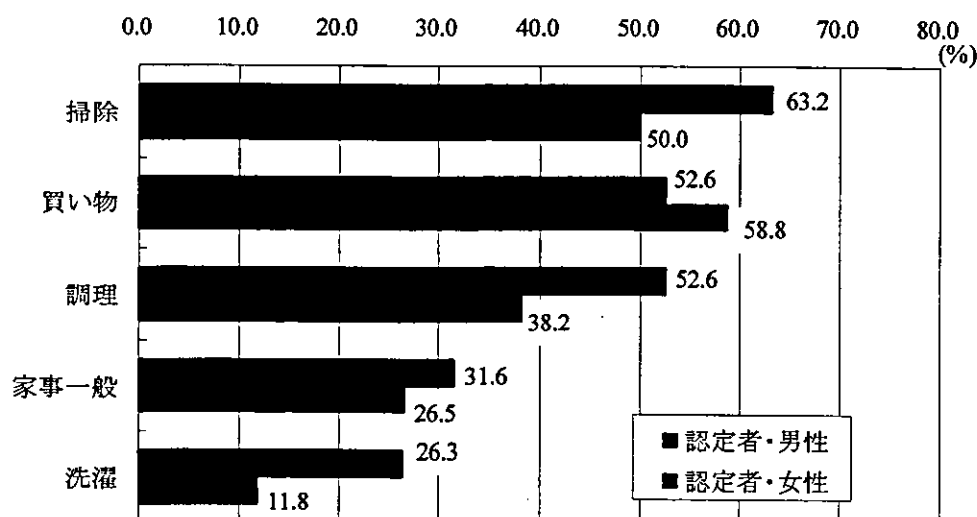
図表21 男女別、介護関連サービスに対する希望



### 家事支援サービスへの希望

家事支援サービスについては、買い物を除き、男性の方が女性よりも高い希望を表しています。特に、「掃除」と「調理」に対して高い希望があります。

図表22 男女別、より多くの支援を希望する家事サービス



## 鎌ヶ谷市の高齢者

### －「高齢者の生活実態に関するアンケート調査」結果概要－

平成 15 年 10 月、鎌ヶ谷市に住む 65 歳以上の高齢者の方を対象に「高齢者の生活実態に関するアンケート調査」を実施いたしました。ここでは、未認定者の方の健康状態や社会参加の様子、要介護認定者の介護に関わる方々等について、主な調査結果をお知らせします。

#### 調査の方法

本調査は、要介護認定者（以降、認定者と呼びます）と未認定者から調査対象者をくじ引きの要領で無作為に選んで、調査にお答えいただきました。鎌ヶ谷市にお住まいの 65 歳以上高齢者の方を対象に、認定者の方 1,540 人と未認定者の方 1,328 人に調査票を配布しました。そのうち調査票をご返送いただいたのは、認定者 911 人（回収率、50.1%）、未認定者 863 人（回収率、65.0%）でした。

調査票を回収後、在宅で生活されている 65 歳以上の高齢者の方を対象に調査結果をまとめました。尚、80 歳以上の方は多くありませんので、結果の解釈にはご注意ください。